

札響くらぶ

No. 47



発行／札響くらぶ(財)札幌交響楽団内
 札幌市中央区中島公園1番地15号(札幌コンサートホール内)
 HPアドレス <http://members3.jcom.home.ne.jp/sakkyoclub/index.html>
 Eメール sakkyoclubmail@yahoo.co.jp

平成21年度 札響くらぶ総会を開催

平成21年度の総会は、武藤事務局長の司会進行で平成21年5月30日(土曜日)、札幌コンサートホール2階大会議室において、会員40名が出席して定刻の午後1時を少し過ぎて開催された。

会長の挨拶

開会にあたって札響くらぶ会長上田文雄氏は、「札響は今、危機的な状況から脱して在京オーケストラと比しても遜色ないオーケストラとなった。2年後に50周年を迎えるが、我々聴き手が支えていく。札響くらぶは設立趣旨として単なるリスナー・ファンクラブではなく、私たちがファンを開拓していく積極的な姿勢で活動することとしている。新しい聴衆を獲得していくために、ファンに声かけし、会場に向いてもらおうと3年ぶりに札響くらぶコンサートを開催する。これにより会員の増加、仲間を増やしていき、いつもキタラが満席となるようファンクラブとして努力しましょう。」と開会の挨拶をされた。

する札響くらぶコンサートで、大いに札響と遊んでいただきたい。2011年の50周年でヨーロッパ演奏旅行を計画している。今そのための貯金をしているが、同じように50周年を迎える国内のオーケストラが計画を中止しているので、本当に行けるのか心配はある。昨日、今日のドン・キホーテのソリストを楽員であることができた。札響に力が付いたと感じています。」と挨拶を述べられ、議事に移った。

ました。



閉会挨拶

最後は、西川副会長が「小学6年生のファーストコンサートは、札響くらぶが政策提案したもの。同じく札響くらぶが提案して設立したJOFCはアフィニス財団も応援し、日本オーケストラ連盟も無視できない存在になってきている。これからも会員皆で力を合わせがんばり、会員1000人を目指していきましょう。」との挨拶で閉会し、出席者は第519回定期演奏会を聴くため、キタラ大ホール移動した。



議長選出・議案審議

議事は式次第に従い、出席者から竹津宜男氏を議長に選出し行われた。竹津議長から、「時間に制限があるので迅速な議事進行にご協力をお願いします。」との挨拶があり、議案の審議に移った。武藤事務局長及び会計担当者から議案についての説明があり、活発な質疑・応答を経て議案はすべて承認された。(議案の内容、質疑・応答については5面に掲載) 無事審議も終了し、竹津議長は退任し



来賓の挨拶

続いて、来賓の札響専務理事の西村善信氏は、「3年ぶりに開催



札幌首席客演指揮者

ラドミル・エリシュカ氏は語る

去る4月15日、第518回定期演奏会の練習を開始したばかりのエリシュカ氏を芸術の森に訪ね、練習終了後にお話をうかがいました。お話の中で何度かご自身のことを「とても年寄りなので」とおっしゃっていましたが、そんなことは微塵も感じさせないほど（練習後にもかかわらず）熱く語っていただきました。さまざまなエピソードをまじえ、終始にこやかな表情で私たちに語りかけていただき、同席された夫人も熱心にエリシュカ氏のお話に耳を傾けていました。終始、真摯な態度で接してくださるマエストロをますます好きになった1時間でした。

ドヴォルジャークに関して

私は現在、チェコでドヴォルジャーク協会の会長を務めておりますし、長年、指揮者としてドヴォルジャークの作品を演奏会で取り上げてきています。オペラこそ有名な『ルサルカ』しか指揮していませんが、たくさんある交響曲はじめオーケストラ作品、その全てを私は演奏しました。ドヴォルジャークの音楽は、演奏家にとっても聴かれる方々にとっても、分かりやすい音楽だと思います。「メロディの発明家」と言われるほど美しいメロディを沢山思いついた人で、紙が手許にない時は自分の袖にまでメロディを書きとめていたといわれています。そのドヴォルジャークが、日本でもこんなに愛されているのは私たちチェコ人にとって非常に嬉しいことです。以前、当時の小泉首相が国賓として招かれチェコを公式訪問された際、わざわざドヴォルジャークのお墓に素敵なお花を供えてくれました。かねてより日本人は文化的な民族だとは思っていましたが、本当に温かい心の持ち主で、ドヴォルジャークを深く理解し受け入れてくれているのだと感動しました。ドヴォルジャークの作品は、最後の交響曲である第9番『新世界より』や交響曲第8番、チェロ協奏曲などは、日本で当たり前のようにな有名でよく演奏されており、これも素晴らしいことです。今回（4月の第518回定期）は交響曲第7番を演奏します。この曲は彼が有名になるきっかけとなった評価の高い作品で、第8番や第9番ほど有名ではないのですが、世界的に名を成す作品の一つであることは間違いありません。もしドヴォルジャークの存在がなければ、演奏家と指揮者にとって紹介できるチェコの作品はごくわずかになってしまいますね。

今回、ヤナーチェクの作品も取り上げます。ご存じとは思いますがヤナーチェクはドヴォルジャークの次の世代のチェコの作曲家です。そしてヤナーチェクはとてもドヴォルジャークのことを尊敬していました。しかし、当時のチェコではスメタナを重んじる人たちがドヴォルジャークを排除しスメタナを守ろうとする方向に動いていた時期でした。そのため、本来ドヴォルジャークはとても人気があり演奏回数も多い作曲家だったのですが、1904年にドヴォルジャークが亡くなった時には、弔う友人も数少なかったとのこと。戦争のせいで、絵画や文学、音楽など大切な文化を創った人たちの心というよりも、政治的なことを優先する悲しく残念な時代だったのです。

マエストロの子供時代

私が音楽を習い始めたのは8歳のときです。何故8歳という遅い時期に楽器を始めたかという、戦前からドイツ領（ズデーデン）に住んでいたために、第二次大戦中に一家はそこから逃れ、落ち着くまでに転々としたからです。最初にヴァイオリンを、その後ピアノを、そしてほんのちょっとだけクラリネットを学びました。早くから指揮者になりたいと思い始めていたので、弦楽器も管楽器も学んでおきたいと思ったのです。普通の中学・高校と卒業し、音楽院に進学しました。当時は音楽院を卒業しなければ音楽大学に行くことが出来ません。音楽院を卒業後、私が進学したのはブルノにあるヤナーチェク・アカデミーです。ブルノはヤナーチェクが暮らした街で、私が師事したのはご存知でしょうがヤナーチェクの直弟子であるブジェチスラフ・バカラ先生です。バカラ先生は非常に高名か



写真：野口隆史（ホロト・プレス）

つ実力のある先生でした。

カルロヴィ・ヴァリ時代^(注1)

私はカルロヴィ・ヴァリ交響楽団で長く音楽監督を務め、単に指揮をするだけではなく、どのような曲を演奏するか、誰を客演指揮者として招聘するかなど、演奏活動に関することは全てのことを担当していました。当時は共産主義の時代で、他の世界に住んでいる人たちには想像もできないような閉鎖的な社会でした。オーケストラは西側に演奏旅行に行くことが許されていましたが、一度、演奏旅行中に亡命者が2名もでてしまい、大変な目にあったこともあります。カルロヴィ・ヴァリで、私は同世代のチェコの作曲家の作品を130以上初演しました。これはかなり特別なことで、今でもこの時の作曲家たちには感謝されています。チェコの作品を紹介することは私の使命だと考えています。だって、ベートーヴェンも生きていたときに自分の作品を演奏してもらえたら喜んだことでしょうか。カルロヴィ・ヴァリ交響楽団は1835年創立、チェコで最も古いオーケストラという伝統があります。規模も大きく私が監督をつとめていたときには86名もの団員がいました。4管編成で楽団員はも





写真：野口隆史（ホロト・プレス）

もちろん全員チェコ人でした。ドヴォルジャークは生前、作曲家として6回カルロヴィ・ヴァリに招待されています。『新世界より』の欧州大陸初演もこのオーケストラで、カルロヴィ・ヴァリの地で行いました。初演されたホールは、屋根はありますが中庭につながる半屋外というような建物です。いまその建物は残っていますが、レストランとして利用されています。

日本での活動

初めて日本に呼んでいただいた時には、こんなに何度も来日することになろうとは考えてもいませんでした。自分でも驚いています。私はチェコ国内のアカデミーでの教授職を主としていましたので、こんなに何度も指揮する機会を与えていただいて感謝しています。チェコで有名な保養（温泉）地のマリアーンスケー・ラズニェ（注2）で客演した際に初めて、日本行きのお話をいただきました。2004年の初来日公演で日本の皆様に気に入ってもらえ、いろいろな評論家の方からも高い評価を受けましたので、次の来日（2006年）へとつながり、札幌と協演できることになりました。初共演から私は本当に札幌のことを気に入りましたし、多分、札幌のメンバーも私のことを気に入ってくれたのではないかと思っています。さらに、そのときに食べたホテルの朝食が凄く美味しかったので是非また札幌に来なくては、とも思っていました（笑）。札幌だけでなく、日本のレベルの高いオーケストラを振らせていただいて、毎回、日本に来るのが楽しみです。

演奏する曲目

もちろん私のレパートリーは多岐にわたっており、客演のお話をいただいた時には4,5枚の紙にびっしりとプログラム案を書いて送っています。しかし、日本の方々がまず私に望むのが、チェコまたはスラヴの音楽を指揮することになるのは当然のことでしょう。もし私が今40歳なら、全てのチェコ音楽を日本で披露して、その後でマーラーやストラヴィンスキーなどを演奏したことでしょう。時間が許しませんが、何でもやりたいという意欲はいつも持っています。

良いオーケストラとは

うまくなりたいたいというのはどんなオーケストラにも与えられた課題です。そう思うことで成長します。先日のN響との演奏会で『ジュピター』をとりあげましたが、リハーサルでは私が難しいと思っている最終楽章を「少ししつこいかな」、と思うぐらい何度も繰り返し練習しました。しかし、そのときの楽員さん達の顔が嬉しそうだったこと・・・とても印象に残っています。誰でも厳しい練習を延々とすることはいやなことでもあるわけですが、クオリティの面では厳しさも必要となってきます。

話は少しそれますが、N響のように大きな編成のオーケストラでモーツァルトのような小さな編成の曲はちょっと勿体ないような気がします。しかし、オーケストラが大編成だからといって、いつも大きな曲ばかり演奏すればよいというものでもありません。現代の大編成の曲は演奏にあたり財政

面でリスクもあります。どれだけの頻度で大きな曲を演奏するののかということは、オーケストラの規模やレベルとあわせて運営面も考慮していかなければならないことです。

オーケストラのレベルには、指揮者もまた大切です。毎回の演奏で良い指揮者に振ってもらわなくてはなりません。これは大事な問題です。チェコ・フィルの話ですが、1917年にターリッヒが指揮することになりました。そのころのチェコ・フィルはクオリティがそんなに高くはなく、ヴァイオリン奏者の中には構え方さえなっていない人がいました。ターリッヒはそんなオーケストラを訓練に訓練を重ね7年間かけて育て上げ、1924年にはヨーロッパ有数のオーケストラとして認められるようにしたといえます。どんなに良いオーケストラでも指揮者の選択を間違えるとすぐにレベルが下がってしまうでしょう。オーケストラを育てる、それこそが指揮者の使命といってもいいのではないのでしょうか。

（聞き手 深井雅昭、松尾英樹）

（注1） カルロヴィ・ヴァリはチェコ西部の都市。世界的に有名な温泉保養地。現在は1年おきに国際映画祭「カルロヴィ・ヴァリ映画祭」が開催されている。草津町の姉妹都市。

（注2） マリアーンスケー・ラズニェはカルロヴィ・ヴァリと並ぶチェコの温泉保養地。ドイツ語読みはマリーエンバート。ゲーテやショパン、カフカなど訪れた著名人は多数。1961年ヴェネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞した映画『去年マリエンバートで』（監督アラン・レネ）により地名は日本でも有名。

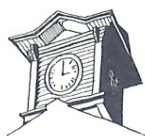


エリシユカさんご夫妻

札幌物語 46

(500回定期をめぐって)

「停電」(その3)



演奏会の最中に停電などあったらたまったものではない。そんなにあることではないが、3回目の停電も北海道内の「でんでんマイタウンコンサート」でのことだった。

1952年に誕生した日本電信電話公社は1985年にNTT株式会社になり独占企業ではなくなった。1979年(昭和54年)ころ着任された北海道電気通信局が「間もなく電電公社は民営化される、いまの内にお客さんにサービスすることが必要である。電話は話を伝える手段には違いないが生のオーケストラの音を届けることには出来ない。生のオーケストラを道内各地に派遣出来ないか」と言われ誕生したのが「でんでんマイタウンコンサート」だった。と言う形で札幌の道内公演が実現した民営化前の各地域への一大サービスである。電電公社の担当者と一緒に公演予定地へ打合せに行く度に「北海道は面積が広く張り巡らすケーブルの長さは他の通信局と比較の対象

にならないほど長い。積雪寒冷地なので山を越え谷を越えて繋がるケーブルの保安作業は想像を絶する危険な作業なのだが、その割にケーブルの先にある利用者は数が少なくて採算が取れない。とは言え利用者の小さな町へ生のオーケストラをお届け出来るのはとても嬉しい」と聞かされた。

1980年にスタートした「でんでんマイタウンコンサート」は4年間にわたって続けられた。毎年1回だけ札幌公演がありそれ以外はまた札幌の演奏会が行われていない町が選ばれて31公演が行われ1985年の民営化を迎えたのだった。

スタートした1980年には栗山町から始まって江差町、奥尻町、枝幸町、羽幌町、岩内町、厚岸町、留辺蘂町、美幌町、足寄町で開催され各地でとても人気の演奏会だった。この演奏会がきっかけでその後栗山町では「ひな祭りコンサート」が続いている。7月8日に行われた奥尻町での「でんでんマイタウンコンサート」は札幌に

とって初めての離島コンサートで、奥尻小学校体育館で行った。床に敷いたゴザの上には肩を寄せ合せて文字通り立錐の余地もないほどの聴衆が集まった。舞台はビールのコンテナを台にコンパネを張った札幌方式の仮設舞台で尾高忠明マエストロの指揮で札幌は演奏を始めた。曲はドボルザークの「新世界交響曲」だった。第1楽章の演奏最中に突然会場は真っ暗になった。もし尾高マエストロが停電に動揺して指揮台から下りたら間違いなく誰かの足を踏みかねないほど指揮台の真実まで聴衆で埋まって危険な状況だった。幸い短い中断で点灯された。原因は小さな小学校がオーケストラ公演の会場になったためだった。ステージを照らすために増設されたスポットライトにより、小学校の契約電力を大きくオーバーした電流が流れたためブレーカーが落ちたのだった。3回経験した演奏中の停電の2回までが何故か「新世界交響曲」の演奏中だった。初めての離島公演の翌日、港には大勢の町の人々が見送りに来てくれた。岸壁を離れる連絡船の上では感動した団員が楽器を取り出し見送りに応えた。

(竹津宜男)

9月 札幌定期のききどころ ～定期演奏会を満席に～

9月の定期について会員さんに語っていただきました。尾高音楽監督お得意のブルックナーと若手ピアニストによるモーツァルトです。フレッシュな感覚のモーツァルトと重厚感あふれるブルックナー、9月もききどころ満載です。皆さんもお友達を誘って定期演奏会に出かけましょう。札幌くらぶ会員の手で定期演奏会をいつも満席にしましょう。

■第521回定期演奏会

9月18日(金) 19:00～ 19日(土) 15:00～

指揮：尾高 忠明(札幌音楽監督)

独奏：アンドレア・ルケシーニ(ピアノ)

曲目：モーツァルト/ピアノ協奏曲第24番

ブルックナー/交響曲第5番

尾高=札幌によるお得意のブルックナーです。2月の『ロマンティック』に引き続き今回は5番の交響曲で、重厚な響きを存分に味わってください。ブルックナーというと、改訂版がたくさんあり、どの版で聴くかでかなり印象が違いますね。でもこの5番は珍しく、完成後に補筆を行い最終的に完成してからは改定を行わなかったようです。したがって、ハース版もノーヴァク版もほぼ一致しているとの事。この長大な曲を札幌がどのように聴かせてくれるのか、期待は膨らむばかりです。

平成21年度 札幌くらぶ総会・議事

■平成20年度活動状況報告

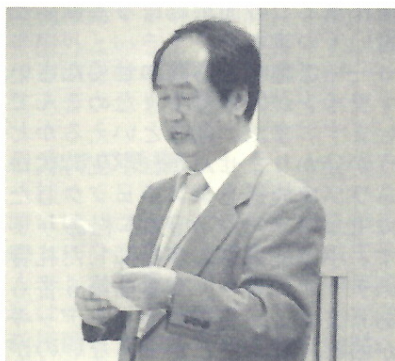
会員数、会報『札幌くらぶ』の発行、札幌楽譜支援、維持会員を継続、交流会（総会懇親会（5月24日）、札幌くらぶのクリスマスパーティー（12月6日）、上田会長還暦祝い（9月12日））、練習見学会、JOFC第2回総会（山形）、会員証の発行、北海道新聞の掲載記事札幌くらぶスタッフ会議（運営スタッフ会議6回、事務局会議2回開催）などの活動状況を武藤事務局長が報告。

■平成20年度会計決算報告・会計監査報告

普通会計を前田普通会計担当が、特別会計を武藤事務局長（兼特別会計担当）が説明。その後、西川会計監査より監査結果の報告があり承認された。

《活動報告への質疑》

Q：コンサート経費の収支の明細について



A：収支については21年度予算案の提案時に説明をしたい。20年度の支出は今年8月9日の大ホール使用料の前納分。

■平成21年度活動計画案

1. 札幌応援関係（(1)楽譜支援を継続 (2)維持会員を継続 (3)札幌定期会員、維持会員の拡大 (4)札幌団員の個人リサイタルやコンサートなどを支援 (5)札幌が主催するイベントへの協力を継続）
2. 会員サービス関係（(1)札幌くらぶコンサート開催 (2)札幌と札幌くらぶの交流会開催 (3)練習見学会開催 (4)会報『札幌くらぶ』の発行 (5)札幌くらぶ会員の拡大 (6)JOFC総会（高崎）参加 (7)10周年記念誌発行 (8)会員証の発行）

3. 年間活動案予定表

以上を武藤事務局長より説明

■平成21年度会計予算（案）

普通会計と札幌くらぶコンサートの収支を含めた特別会計を各担当者より説明、提案。

《活動計画案の質疑》

Q：スコアファイルの作成に当たって、札幌と相談したのでしょうか。

A：作成の際、費用については相談を受け、仕様については札幌で決められ作成されています。

Q：定期会員を増やす努力をし定期を満席にしたい。また、学校での音楽活動で札幌の存在を知らな

い子供や親たちが多くを知った。札幌くらぶの活動範囲を広げて、行政に働きかけられる団体になって欲しい。

A（会長）：二つの立場を使い分けていることの理解をしていただいていると思う。行政と文化団体の関わりについて、厳しい財政状況の中でも札幌の支援についても理解されている。

Q：コンサート経費の中で、前年度に支払われているものが含まれているように思うが…。

A：22年度もコンサートを計画しており、すでにホールの予約をしていて、その使用料の前払いが発生するので、その金額を含めている。

Q：会員数が減少しているようですが、会員特典の魅力が乏しい。もっと特典を増やせないか。また、札幌くらぶコンサートも先行予約だけが特典で、チケット代は一般と同じ…。

A：チケット代については議論したが、収支の関係で今回は断念した。次回については検討します。

A（会員）：コンサートを開催したり、楽譜支援をしたりなどで、札幌を支えているというプライドも会員サービスとなる。

Q：札幌にはアマチュアのオーケストラが沢山あるが、札幌くらぶコンサートのことをほとんど知らない。もっと宣伝すべきでは…。

A：そのとおりです。お力を貸していただきたい。

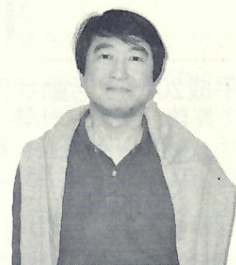
交流会でのひとコマ



Player's talk 1

チェロ
ぶんや
文屋

はるみつ
治実



——ご出身は

旭川です。小学校に入る前から音楽教室に通ってオルガンとかピアノとか習っていました。音楽は好きだったのですが音楽の授業が嫌いで、小学校の高学年でやめてしまいました。高校2年の時に芸大にいった兄から「チェロでも弾いてみたら」と言われ、11月から始めました。兄のコントラバスの先生で、芸大の元教授の長汐寿治先生が昔チェロを演奏していたとのことで江別にある先生の自宅を訪ねました。ところが先生から「チェロを専門に勉強するのなら私じゃない方がよい」と言われて、札幌で活躍されていた上原与四郎先生を紹介していただきました。旭川から札幌に習いに通ったのですが、夜遅くなるものから、クリスマスの夜11時過ぎに楽器を持って旭川の街を歩いていたら、刑事さんに補導されました。当時チェロなんて珍しかったし、学生服を着て夜中に大きな物を持って歩いていたのがよほど不審だったのでしょうねえ(笑)。

——学生時代は

芸大1年生の時からエキストラに呼ばれる機会が多くて、学校に行っているよりもアルバイトの方が多かったですね。学校へ行ったときは講義に出るより、練習室でひたすら練習が居眠りをしていました。朝、学校へ行って練習室をとるのですが、30分間でも部屋をあけると他の人に取られてしまうので、昼休みも食事でも外に出ることもできず1日一食という生活でした。

——札幌入団の経緯を

卒業後東京交響楽団に入団しましたが、学生時代からの腱鞘炎がひどくなり、一から勉強し直す為にフィンランドのシベリウス・アカデミーに留学しました。師事したのはアルト・ノラス先生、世界中のチェリストで知らない者はいないというほどの方です。毎朝6時から猛練習していたのですが、腱鞘炎も治ってはいなく腕が動か

ないので先生には怒られっぱなしでした。今は、鏡が先生です。正しい演奏のフォームで弾かないと腱鞘炎の具合が悪化するのです。いつも鏡を見て先生の弾いている姿を思い出しながら、自分の姿勢をチェックしています。

フィンランドには国内に音楽大学が2つしかないのですが、当時45万人ほどの首都ヘルシンキに100人規模のオーケストラが3つもありました。ちなみに、シベリウスの作品は聴くのは大好きですが、演奏するのはあまり好きではありません。きれいで単純なメロディに聴こえますが演奏はとても難しいのです。やはり20世紀の作曲家、シベリウスの作品は現代曲ですね。

留学を終えようとしていた頃、母が上原先生に告げたようで、私が知らないところで札幌オーディションの準備が進んでいました。帰国したらすぐにオーディションを受けることになっていて、「おれは札幌に帰るとは一言も言っていないぞ」と思いました(笑)。入団して23年、あつと言う間ですね。10年ほど副首席も務めました。自分がソロを弾いたコンサートはよく覚えています。英国ロイヤル・バレエの「眠りの森の美女」やPMFでのショスタコーヴィチの交響曲第1番、特に高関さんの指揮で名古屋フィルと合同で演奏したマーラーの8番はとても素晴らしいコンサートでした。

——オケ以外での活動は

素晴らしい曲を沢山演奏した



いっていう気持ちが強いんですね。人前で弾くことは大変勉強になるので、毎年2種類のリサイタルを続けています。夏は、20世紀以降の曲のみのプログラムにしている、今年6月はピアソラを中心とした構成になります。ピアソラはまだそれほど知られていない十数年前に「グランタンゴ」という曲を弾いて以来、すごい人だなと。その時は、ピアニストが現代曲のスペシャリストで、楽譜を送ってくれたのです。新得町の廃校になった学校が会場でしたが、たまたま東京から聴きにいらした方がピアソラを知っていらして「まさか北海道に来てこの曲を聴けるとは」と驚いていました。

——ご趣味をお聞かせください。

ワインが好きで少々ためこんでいます。また、趣味といえるかどうか分かりませんが、学生時代からラジオ放送をエアチェックしたカセットテープが900本程あります。小澤征爾さんが指揮した札幌のチャイコスキー交響曲第5番もありますよ。現在カセットデッキが壊れて聴くことができないのが悩みですが(笑)。

——札幌くらぶに一言お願いします

これからもずっと応援していただけるだろうと思うと、大変心強く思います。どうぞよろしく願います。

(中山正治、松尾英樹)

文屋さんのリサイタルです BUNYA PLAYS PIAZZOLLA

現代のチェロ音楽コンサート No. 18

「ピアソラと彼を取り巻く人々の作品を集めて」

6月17日(水) 19:00開演

ザ・ルーテルホール(大通西6)

チェロ: 文屋治実

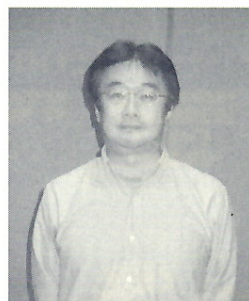
ピアノ: 浅井智子

全席自由 3,000円

Player's talk 2

フルート
やまさき
山崎

しゅう
衆



——ご出身は

生まれは宮城県ですが、小学校入学前に函館に移り、高校卒業まで函館で過ごしました。

——音楽との出会いは

父と兄がクラシックギターをやっていて、小さいころの自分はリコーダーアンサンブルでテナーを吹いていました。ある日、兄が出演する音楽会があり、そこでフルートの音色を聴き、どうしてもやりたくなりました。父にフルートを習いたいと告げると、私の飽きやすい性格を知っている父が「1年経ってもまだやりたければ、やってもいいよ」と言ってくれて、中学に入る直前からフルートを習い始めることができました。中学では吹奏楽部でした。

——音楽を目指そうとしたのは

漠然とですが、高校に入ったときには既に考えていました。高2のときから札幌に通いレッスンを受け始めました。進学した芸大では、チェンバロの小林道夫先生が指導してくださっていた「バッハ・カンタータクラブ」に入りました。実はこのクラブが芸大では唯一のクラシック音楽のサークルだったのです。小オーケストラと合唱という編成で主にバッハのカンタータを演奏するクラブなのですが、大学の授業では補いきれない経験を積むことができ、ここでの活動が自分にとってとても大きかったように思います。プロの演奏家になろうという意識は大学受験の時から持っていました。当時教わっていた西田直孝先生や細川順三先生（当時札幌にいらしてその後N響で活躍）から、「音大に入るって事はつぶしがきかないんだ」「音大に入ったら、棺桶に両足を突っ込んだと思ってやりなさい」と言われていましたから。

——札幌入団の経緯を

卒業するにあたって考えていたことが三つありました。第一希望は札幌のオーディションを受けるというもの。二つ目が留学で、三つ目が大学院です。ところが、増員するのではと噂に聞いていた札

響のオーディションがその年にはないと聞かされ、大学院もダメで、ドイツに留学することとなりました。ドイツでは2年間フルートの練習に集中できとても有意義な毎日でした。2年間を終えて今度はザルツブルクに移ろうかというとき、丁度札幌のオーディションがあり、合格することが出来ました。札幌が第一希望でしたから、他のオーケストラはもう考えなかったですね。

——ピッコロも演奏されていますが

最初は持ちかえでピッコロをやることの難しさを感じていましたが、今はそうでもないですね。全く違う楽器として練習した方がいいとわかったので、最近ピッコロを吹くのは楽しいです。マーラーはピッコロにとってかなり無理も書いてありますが、やりがいがありますね。500回定期の『復活』は思い出深い演奏会です。

——思い出に残る場所は

札幌の英国公演の最終日、エジンバラで自由になる日がありまして、小さなチャーターバスに乗ってネス湖に行ってきました。ボートに乗ったり楽しい一日でした。残念ながらネッシーは見ませんでした。

——使用楽器について

ラヴェルやドビュッシーなどのフランスものを聴くのが好きです。演奏するのはとっても大変なのですが、実は今使っている楽器がフランス製の古い楽器で、これを使い出してから、その時代の音楽や演奏に興味が出てきました。1873年製のルイ・ロットというメー



カーの楽器ですが、ピッコロや木管フルートも含めこのメーカーのものを7本持っています。現代のメーカーのほとんどは、このメーカーのコピーから始まっていると言っても過言ではないくらいです。このメーカーの楽器を使っている演奏は音を聴いたらわかります。ランバルが使っていた最初の金のフルートは、ルイ・ロットが作った唯一の金のフルートで、この楽器を使った演奏はとても素晴らしいです。残念ながらルイ・ロット社は1950年代に無くなってしまいましたが、「ルイ・ロットの館」という超オタクなブログをやっているの、是非、検索して見て下さい。

——ご趣味をお聞かせください。

釣りです。フライフィッシングと鮎釣りをしています。フライは夕方の方がいいので4時15分くらいに練習が終わるとそのままニセコ方面に走って、釣りをすることもあります。釣り竿も自作しています。バンブーロッドとって、竹を削って貼りあわせて造ります。黒松内に日本一のビルダーの方がいらして、「プロの技を持ったアマチュアになりたい」と言って10年程前に弟子入りさせてもらいました。コンテストに出せと言うことで出してみたら1等賞を貰ってしまいました。あとは、ファイターズの応援ですね。札幌ドームで稲葉選手のレプリカユニフォームを着て、大声を出しています。今年の優勝パレードが今から楽しみです。

——札幌くらぶに一言お願いします

いつも応援いただきありがとうございます。皆様のお力添えでオーケストラもとても元気を取り戻したと思います。これからも応援よろしくお願いします。

(松尾英樹)

山崎さんのブログ「ルイ・ロットの館」のアドレスは

<http://blog.goo.ne.jp/louislot1800/>

札響くらぶコンサート、チケット発売開始!!

『札響くらぶコンサート』の全容が決定し、チラシとチケット申し込みのハガキがお手元に届いていることと思います。この復活した『札響くらぶコンサート』は“団塊の世代の大人”を対象としたコンサートに変貌をとげ実施されることになりました。日頃、忙しくて時間の余裕がなく、生のコンサートを聴きたくても聴けなかった大人の方を対象に、「ちょっと街に出たついでに、コンサートでも聴いてみようか」という軽いノリでキタラに立ち寄ってもらえればと思います。

メインは『新世界より』です。案外4楽章通してじっくり聴く機会は少ないものです。この機会に『新世界より』を再確認してくだ

さい。また、ちょっぴりマニアの方向けに「作曲家・曲名当てクイズ」を用意しました。札響くらぶからの挑戦状です。見事打ち破ってください。ささやかな賞品も用意しています。

また、コンサートの終演後に団員さんとの交流会も計画中です。こちらも気軽に参加してみたいかがでしょうか。

コンサートの概要は次のとおりです。

日時 / 8月9日(日)

午後2:20会場、3:00開演

会場 / 札幌コンサートホール・Kitara 大ホール

指揮とお話 / 飯森範親 (山形交響楽団音楽監督)



プログラム

第1部 管楽器が活躍する曲

J. シュトラウスⅡ / 「こうもり」序曲

作曲家、曲名当てクイズ

第2部 ドヴォルジャーク / 交響曲第9番「新世界より」

札響くらぶ会員 新特典

札幌交響楽団より札響くらぶ会員に以下の優待についての申し出がありました。ご好意に感謝し、有効にご利用下さいませようご案内いたします。

●平成21年度札幌交響楽団定期演奏会 10%割引(カッコ内は定価)

S席 4,500円 (5,000円)

A席 4,050円 (4,500円)

B席 3,600円 (4,000円)

C席 2,700円 (3,000円)

※学生席の割引はありません。

●平成21年度札響名曲シリーズ

S席のみ10%割引(カッコ内は定価)

S席 3,600円 (4,000円)

※A席、学生席の割引はありません。

《チケットを割引価格で購入できる店舗》

・キタラチケットセンター

・大丸プレイガイド

・道新プレイガイド

・4プラプレイガイド

※各演奏会一般発売日より購入可能なので、会員証を提示して購入してください。

なお、従来から引き続いての会員特典は以下の通りです。また、

特典を提供してくれるお店をご存知の方はご一報ください。

●テラスレストラン・キタラ

飲食10%割引。ただし、一部の商品を除きます。また、グラスワインのサービスがある場合もありますので、あわせて係員にお尋ねください。

●キクヤ楽器店(狸小路3丁目)

全商品10%割引。ただし、店内に限ります。キタラ等の出店では適用されません。

●ダイニング『イル・ネージュ』

(北区北12西1 北12条パークマンション1F)

札響くらぶと申し出てください。シェフからの素敵な特典があります。ご予約・お問合せは011-717-2555まで。

意見・感想をお寄せ下さい

会員の皆さんからの投稿をお待ちします。内容は問いませんが、以下の項目に関してのご意見を特にお待ちしています。

① 『札響くらぶコンサート』で演奏してもらいたい曲目、またはオリジナルな企画

② 札響くらぶ主催でやってもらいたいイベント

③ 会報に取り上げてもらいたい記事

特に投稿の期限はありません

が、7月31日までに投稿して下さった方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。なお、当選は商品の発送をもってかえさせていただきます。

プレゼント商品

① 9月の札響定期演奏会のS席チケット(3名様)(座席の指定はできません)

② 文屋治実さんのサイン入り色紙(2名様)

③ 山崎衆さんのサイン入り色紙(2名様)

投稿は、ハガキ、封書またはE

メールでお送り下さい。なお、その際必須事項を必ずお書き下さい。

必須事項

住所・氏名・会員番号・希望のプレゼント商品の番号。なお、匿名希望の方は、「匿名希望」または「ペンネーム」をお書き下さい。(あて先は会報の題字の下にあります)

編集後記

『札響くらぶコンサート』のチケットの発売が開始になりました。皆様のお手元にも案内が届いていることかと思いますが、このコンサートの成功に向けてスタッフは全力で活動しています。お知り合いの音楽好きにも

声をかけられ、札響くらぶ会員の力でkitaraを満席にしましょう。

さて、今号の目玉は首席客演指揮者エリシュカさんのお話です。通訳の方2名と奥様が同席された中、エリシュカさんのお話は熱がこもるあまり質問の内容からどんどん脇道にそれていき通訳の方から注意されたり、

古い記憶をたどる時には奥様に確認されたり、終始、暖かい雰囲気で行われました。共産主義の暗い時代から現在の日本での活躍、さらにはオーケストラのあり方にいたるまで熱心によどみなくお話いただきました。エリシュカさんの人柄の一端でもこの会報で伝わると幸いです。

(松尾英樹)